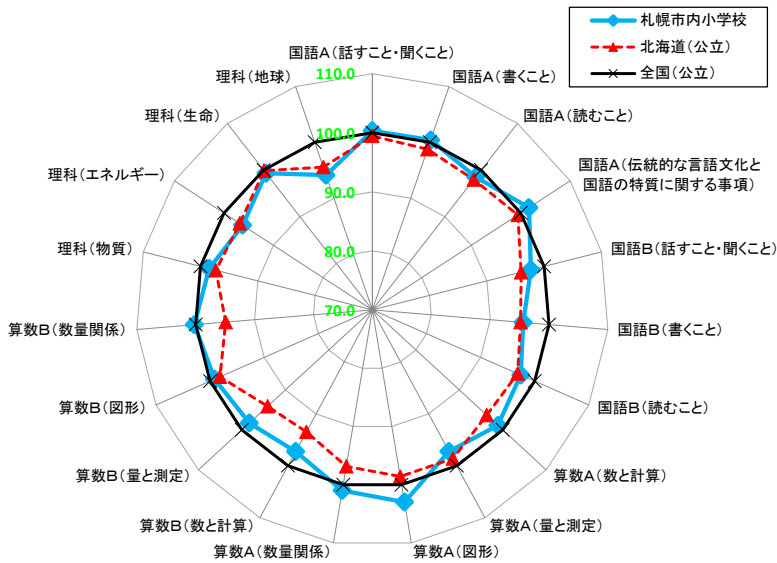


■札幌市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:203校、児童数:14383人)

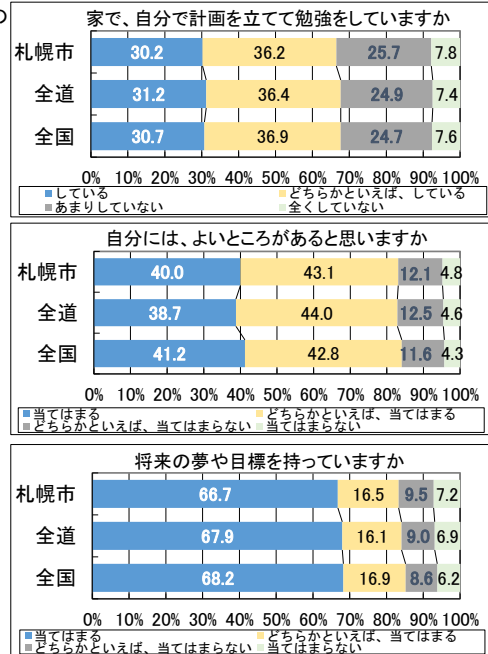
※児童数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

【教科全体の状況】

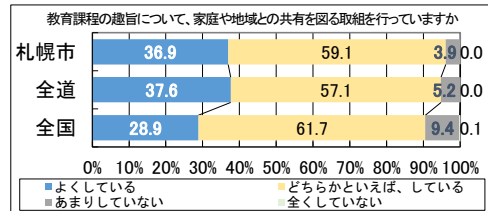
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語、算数、理科ともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。 ○ 国語の漢字、算数の割合に関する設問など、これまで課題であった箇所において、正答率が大きく上昇するなど、改善が見られた。	○ 国語では「目的や意図に応じて内容を的確に捉え、中心を明確にして自分の考えをまとめること」、算数では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」、理科では「観察・実験の結果を基に分析、解釈して考察し、自然の事物・現象について、より妥当な考えを見いだすこと」など、身に付けた知識・技能を活用することについて課題。
児童質問紙	○ 「自分にはよいところがあると思いますか」という項目において、肯定的な回答の割合がこれまで改善傾向にあったが、今年度は大幅な上昇が見られた。 ○ 「自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、これまで60%台で推移していたが、今年度は10ポイント程度の上昇が見られた。 ○ 学習時間について、この10年で上昇している。また、「全く学習しない」と回答した子どもが半減している。	
学校質問紙	○ 「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」という項目において、肯定的な回答の割合が96.0%となっており、全国と比べ高い状況が見られた。	

【札幌市の学力向上策】

- ◎ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用
 - 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～)＊各学校のHPIに掲載
 - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～)＊徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
 - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
 - ・指導主事による助言機会の拡充
 - ・研究開発事業における実践例の普及
 - 校内研究の代表者に向けた研修会(札幌研事業 校内研究推進会議)
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の3つの視点から授業改善
 - 1 課題探究的な学習の充実
 - 2 学習評価の充実
 - 3 小中一貫教育の視点
- ◎ 全市での「課題探究的な学習の推進」
 - 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - セルフチェックを活用した授業改善
 - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理して、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進
- ◎ 家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用
 - さっぽろっ子「学び」のススメの活用
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用
 - さっぽろっ子「学び」のススメを基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント

1. 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
3. 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
4. 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
5. 生活を自らコントロールする力を育みます。

6つのセルフチェック

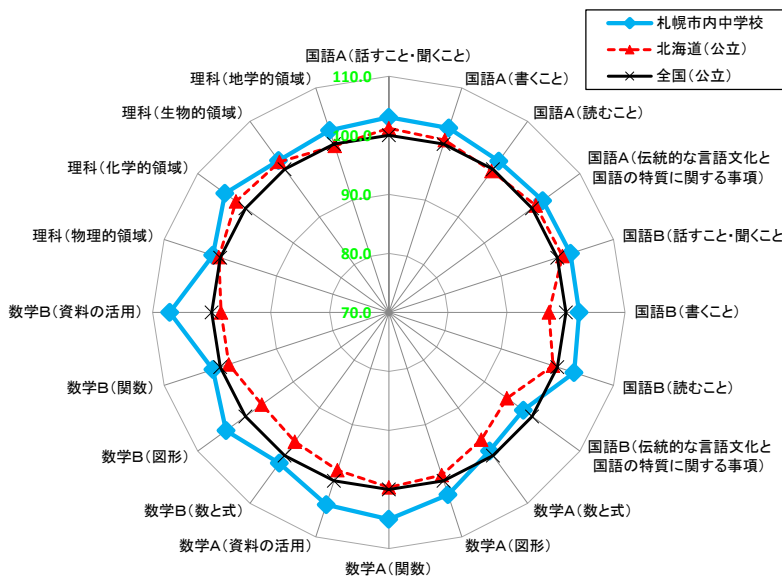
1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？
2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？
4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？
5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？

■ 札幌市内中学校の状況及び学力向上策 (学校数:99校、生徒数:13804人)

※生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものと(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

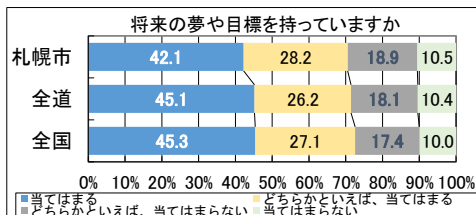
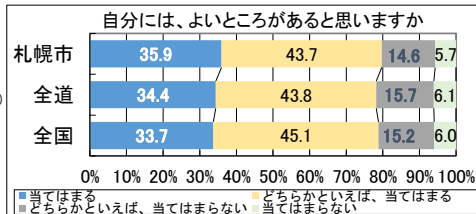
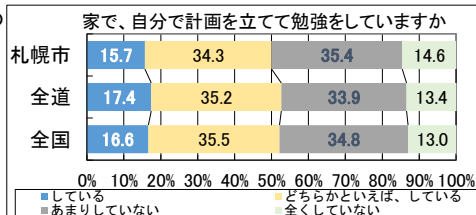


札幌市の平均正答率 (%)

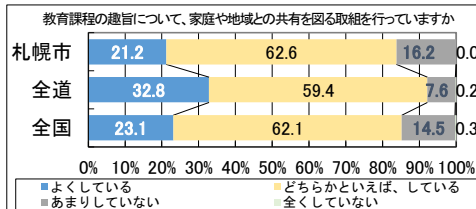
国語A	国語B	数学A	数学B	理科
78	63	67	49	68
(77.8)	(62.8)	(67.4)	(48.5)	(67.8)

※上段が文部科学省から提供された値、下段の()内は、札幌市が独自に計算した値。

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	- 国語、数学、理科ともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。 - 国語の漢字、数学の割合に関する設問など、これまで課題であった箇所において、正答率が大きく上昇するなど、改善が見られた。	国語では「目的や意図に応じて内容を的確に捉え、中心を明確にして自分の考えをまとめること」、数学では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」、理科では「観察・実験の結果を基に分析、解釈して考察し、自然の事物・現象について、より妥当な考えを見いだすこと」など、身に付けた知識・技能を活用することについて課題。
生徒質問紙	「自分にはよいところがあると思いますか」という項目において、肯定的な回答の割合がこれまで改善傾向にあったが、今年度は大幅な上昇が見られた。 「自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、これまで60%台で推移していたが、今年度は10ポイント程度の上昇が見られた。 - 計画を立てて勉強すること、家で学校の宿題をすることにおいて、肯定的な回答の割合が上昇傾向にある。また、学習時間について、この10年で上昇している。	
学校質問紙	「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」という項目において、肯定的な回答の割合が83.8%となっている。	

【札幌市の学力向上策】

- ◎ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用
 - 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～) * 各学校のHPIに掲載
 - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～) * 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
 - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
 - ・指導主事による助言機会の拡充
 - ・研究開発事業における実践例の普及
 - ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌研事業 校内研究推進会議)
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の3つの視点から授業改善
 - 1 課題探究的な学習の充実
 - 2 学習評価の充実
 - 3 小中一貫教育の視点
- ◎ 全市での「課題探究的な学習の推進」
 - 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - セルフチェックを活用した授業改善
 - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理して、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進
- ◎ 家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用
 - さっぽろっ子「学び」のススメの活用
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用
 - さっぽろっ子「学び」のススメを基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント

1. 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。
3. 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
4. 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
5. 生活を自らコントロールする力を育みます。

6つのセルフチェック

1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？
2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？
4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？
5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？